

報道関係各位

2020年7月15日

社会的責任投資の代表指数「FTSE4Good Index Series」と「MSCI日本株女性活躍指数」の構成銘柄に4年連続で選定

株式会社 LIXIL グループ (以下 LIXIL グループ) は、社会的責任投資 (SRI) の代表指数である「FTSE4Good Index Series」と日本株を対象とした「FTSE Blossom Japan Index」、ならびに性別多様性の分野で優れた取り組みを行っている日本企業を対象とした MSCI 社の「MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)」の構成銘柄に、4年連続で選定されました。



FTSE4Good

FTSE Blossom
Japan

2020 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

世界的なインデックスプロバイダーである FTSE Russell 社による「FTSE4Good Index Series」は、ESG (環境、社会、ガバナンス) 3分野すべてにおいて、高い評価を受けた企業が構成銘柄として選定されており、投資判断やリスク分析に活用される代表的な指標です。3分野それぞれに関して、独立委員会のメンバーが 300 以上の項目を分析し、企業のリスクレベルや実績を評価しています。LIXIL グループは、日本株を対象とした「FTSE Blossom Japan Index」^{※1}にも選定されています。

※1 FTSE Blossom Japan Index は、ESG (環境、社会、ガバナンス) について優れた対応を実践している日本企業のパフォーマンスを測定するために設計された指数です。業種の比率が日本の株式市場と同等になるように構築され、銘柄の組み入れは国連の持続可能な開発目標 (SDGs) を含む既存の国際基準を基に作成されたルールに基づきます。

「MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)」は、ESG 要素の中で社会面での企業の取り組みに特化し、女性の管理職や採用比率が高い企業で構成されています。同指標では、女性の職場での活躍を推進し、採用・登用を積極的に進めている企業は将来的な労働人口の減少への対応力が高いと評価されます。

LIXIL グループ 取締役 Chief People Officer の Jin Montesano は次のようにコメントしています。

「LIXIL グループが国際的な投資指標の構成銘柄に 4 年連続で選定されたことは、事業活動として ESG に関する要素を取り入れ、継続的に取り組んできた成果によるものであり、大変嬉しく思います。ESG 分野の取り組みは、お客さま、取引先、地域社会など様々なステークホルダーに影響を与えるだけでなく、従業員にとっても、自らが働く企業に対する誇りと仕事へのやりがいにつながると考えています。当社は今後も、責任のある企業経営を行い、持続可能なイノベーションを推進することで、より豊かで快適な暮らしと住まいの実現を目指してまいります」

LIXIL グループの主な ESG の取り組み

ESG 投資への関心が高まる中、LIXIL グループでは事業活動を通じて社会課題を解決するコーポレート・レスポンシビリティ活動を積極的に推進しています。

CR 戦略の 3 つの取り組み分野の 1 つとして「[水の保全と環境保護](#)」に取り組んでおり、「環境ビジョン 2050」に基づき、事業活動における環境負荷の低減、環境に配慮した製品・サービスの提供を通じて、循環型経済 (サーキュラーエコノミー) の実現を目指しています。

こうした取り組みの一つとして、工場からの廃棄物発生量の大幅な削減を実現しており、日本および欧州における廃棄物再資源化率は95%以上を達成しています。例えば、三重県名張工場では、これまで廃棄物として処理していた木屑をバイオマス燃料として売却し、木屑廃棄物排出ゼロの体制を構築しました。また、タイのラヨン工場とランシット工場では、埋め立て処理をしていた汚泥、型屑、セラミック屑などをコンクリート原材料として再資源化することに成功し、2020年3月期には90.5%の再資源化率を実現しています。このような事業活動で直接的に排出される廃棄物削減のほか、持続可能な資源の利用も推進しています。GROHEでは2018年よりパッケージに使用される材料をより持続可能な素材に置き換える取り組みを進めており、2021年までにプラスチック製のパッケージを最大3,500万個削減できる見込みです。こうした成功事例をLIXILグループが展開する他のブランドとも共有し、グローバルに環境活動を広げています。

ガバナンス面に関しては、LIXILグループの取締役会の議事運営を担う取締役会議長に、社外取締役を選任しています。また、当社では取締役会の下に指名委員会、監査委員会、報酬委員会の3つの委員会を置くガバナンス体制をとっていますが、昨年、コーポレートガバナンスの監視・監督を行う常設機関としてガバナンス委員会を追加設置しました。これらの委員会の委員長および委員はすべて社外取締役で構成されています。指名委員会では、取締役候補者および執行役候補者の選任プロセスの見直しを行いました。加えて2020年12月には、LIXILグループと株式会社LIXILの合併が予定されており、意思決定の迅速化とグループガバナンスの向上による機動力の強化を図ります。

また、LIXILグループでは「多様性の尊重」にも注力し、誰もがいきいきと活躍できる環境の構築を進めています。社内では、従業員が自身の業務やライフスタイルに合わせて自由な働き方を選択できるように、在宅勤務やフレックスタイム制を導入し、積極的な活用を推進しています。加えて、デジタルインフラを充実させ、世界中の従業員同士の連携を強化してきました。女性管理職比率においては、国内の主要な建材・設備機器メーカーが統合し、LIXILが誕生した2011年には0.9%だったのに対し、現在は5.7%まで上昇しました^{※2}。また、新入社員の女性比率を30%以上とすることを目標として掲げ、2014年度より毎年達成しているほか^{※3}、次世代を担う女性リーダーの育成にも注力しています。

※2 ※3 株式会社LIXIL・日本国内の実績

さらに、企業の取り組みを人権の観点から見直す動きが広がる中、当社では新たな取り組みとして、人権NGOやコンサルタントの協力を得て、特に注力すべき7つの人権重要分野を特定し、人権に配慮した事業活動を推進しています。2022年3月期までには、全従業員を対象とした人権リスク調査を実施し、潜在的リスクの低減に努めます。

LIXILは、「グローバルな衛生課題の解決」にも大きく貢献しています。LIXILのソーシャルビジネスであるSATOブランドでは、低価格の開発途上国向け簡易式トイレシステムを展開しています。この半年の間に新たに10以上の市場向けに出荷を開始するなど提供地域を拡大しており、これまでに世界38カ国以上で、1,800万人以上の人々の衛生環境の改善に貢献してきました。また、同ブランドでは、開発途上国のコミュニティに深刻な影響を与えているCOVID-19の感染拡大防止に向け、シンプルな設計と低価格を実現した手洗いソリューション「SATO Tap」を開発しました。LIXILグループは、このソリューションの提供拡大を迅速に進め、手洗いの普及を図るため総額約1億円(US\$100万)を拠出するとともに、ユニセフとの「Make a Splash!」をはじめとするパートナーシップを拡大し、衛生環境の改善につなげていきます。「SATO Tap」はインドを皮切りに生産を始め、2020年9月からパートナー向けに提供され、2021年初旬までに生産をさらに拡大し、一般販売を開始する予定です。

LIXILグループのサステナビリティやコーポレートガバナンスに関する具体的な取り組みについては、当社ウェブサイトでご紹介しています。

※株式会社LIXILグループのMSCI指数への組み入れ、および本ページにおけるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたは指数名の使用は、MSCIまたはその関連会社による株式会社LIXILグループへの後援、保証、販促には該当しません。MSCI指数はMSCIの独占的財産です。MSCI指数の名前およびロゴはMSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。